

教科目名 知能機械情報学 (Intelligence Mechanical Information)

学科名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 1 年 (教育プログラム 第 3 学年 ○科目)

単位数など : 選択 2 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 徳安達士

授業の概要			
システムを構築するとき、システムの状態を制御できるように構成部品やレイアウトを設計しなければならない。そのためには、システムの数学モデルと制御理論を用いて、システムの可観測性や可制御性について考察し、制御系の安定性について十分な議論と検証が不可欠である。また、システムが完成したとしても、それを制御するための方法は別途考える必要がある。知能機械学では、制御理論およびロボット工学、人工知能の基礎的な部分について学ぶ。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E1), JABEE 目標 (d2a)	
(1) Visual Basic 2005 の基本的なプログラミング知識と簡単なアプリケーションが作成できる (課題)			
(2) PID 制御の概念が理解でき、これを用いたロボットアームの制御手法が理解できる (定期試験と課題)			
(3) 多自由度ロボットアームの運動方程式を求めることができる (定期試験と課題)			
(4) 動的制御法の必要性を理解し、その利用方法について理解できる (定期試験と課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	知能機械とは?	○ガイダンスを通して、ロボットの歴史と知能ロボットの考え方を紹介する	【理解の度合い】
2	古典制御理論と現代制御理論	○伝達関数と状態方程式の考え方を結び付け、制御系の設計のために必要な可制御性および可観測性の概念について理解する。また、フィードバック制御の概念を理論的に理解する。	
3	-伝達関数		
4	-状態方程式		
4	-可制御性と可観測性		
5	ロボット工学の概念	○自由度の高いマニピュレータについて、順運動学と逆運動学について考え方を理解する。	
6	-順運動学		
7	-逆運動学		
8	人工知能	○人工知能的の代表的な考え方であるニューロファジィの考え方について紹介する。	
9	-ファジィ推論		
10	-ニューラルネットワーク		
13	高知能ロボティクス	○移動ロボットの動作計画について、その考え方について理解する。	
14	-移動ロボットの動作計画法		
15	後期期末試験		
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	配布する資料プリントは、授業の要点を書き込んだりして整理し、適宜ファイルに閉じて管理すること。		【総合達成度】
教科書	担当教員作成の冊子 (参考図書に基づく)		
参考図書	メカトロニクス入門第 2 版, 土谷武士, 深谷健一, 森北出版 ロボット制御基礎論, 吉川恒夫, コロナ社		
自学上の注意	線形代数と微分方程式に関する十分な基礎知識が必要となりますので、知識不足な部分は積極的に復習して知識を補填して下さい。		
関連科目	非線形解析学, メカトロニクス I, II (M 科), 自動制御 (M 科), 機械力学 (M 科)		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について試験と課題で評価する。 総合評価=0.8×(定期試験の点)+0.2×(課題点) 総合評価が 60 点以上を合格とする。 再試験は行わない。		【総合評価】 点